

大正六年十二月十九日第三種郵便物認可 (每月壹圓十五日發行)

阿武郡報

第二十八號

◎道教「安樂銘」の早起

貧富俱に早起すべし。一日の計は晨にあり。朝夕の勞を分つ莫く、事務に當ては専心を要す。凡事明日に譲る勿れ。

明日是最も人を欺く。抑も一年幾個の明日あり乎。正に三百六十有餘を算ふ。其中に喜慶迎賓往來頻々。時には疾病災厄に遭ふ。算し來れば是皆明日なり。會幾個の拙漢有しかを視よ。平素懶惰また因循。本これ今日の事を却け、専ら明日の早晨を待つ。明日偶然に風雨あり。又言ふ天晴るを待つと。天晴れ復た別務生じ。

前事捨て置き事成る無し。却て天を怨み地を恨み。故無く鬼を罵り神を詈る。明日あるが爲めに慢に耽る。事に臨み一起せざんば成らじ。

表 彰

□町村吏員小學校教員功勞者表彰

十月三十一日天長節祝日の佳辰を卜し本郡内に於ける町村吏員及小學校教員の功勞顯著なるものに對し表彰式を郡會議事堂に於て舉行せり當日表彰の光榮に浴したるものは佐々並村長山崎文、見島村長長谷川房次郎、多磨尋常高等小學校訓導兼校長兼田万崎村立多磨圖書館長櫻井民次郎及嘉年村書記水津忠太にして表彰文並事蹟概要左の如し

□表彰文

阿武郡佐々並村長

勳七等 山崎 文 輔

明治十八年戸長役場御用掛トナリテヨリ自治事務ニ従事スルコト實ニ三十有餘年村長ノ職ニ在ルコト茲ニ二

大正七年十一月十四日印刷

大正七年十一月十五日發行

發行所 山口縣阿武郡役所

山口縣阿武郡萩町
第二千二百六番屋敷

印刷所 株式會社萩響海館

十有二年其ノ間常ニ意ヲ自治ノ發達ニ注キ克ク事務ヲ整理シ教育産業ノ普及發達公租滯納ノ矯正ニ努力シ信用組合ノ振興林野問題ノ整理統一ニ努力スル等其ノ効績洵ニ顯著ナリトス仍テ銀盃壹組ヲ授與シテ茲ニ之ヲ表彰ス

大正七年十月三十一日

山口縣阿武郡長正七位勳六等 岡村 勇二

阿武郡見島村長

勳八等 長谷川 房次郎

明治三十四年學ケラレテ村長トナリ爾來重任シテ今日ニ至ル其ノ間常ニ意ヲ自治ノ發達ニ注キ克ク事務ヲ整理シ教育ノ普及租稅滯納ノ矯正産業ノ發達勸諭貯蓄勸獎ニ努力シ特ニ村民積年ノ債厄ヲ救済シテ今日アルニ至ラシメタル等其ノ効績洵ニ顯著ナリトス仍テ銀盃壹組ヲ授與シテ茲ニ之ヲ表彰ス

大正七年十月三十一日

山口縣阿武郡長正七位勳六等 岡村 勇二

阿武郡多磨尋常高等小學校訓導兼

校長兼田万崎村立圖書館長

櫻 井 民 次 郎

明治二十四年小學校訓導トナリテヨリ教育ノ業ニ從事

セルコト茲ニ二十有七年其ノ間恪勤精勵毫モ倦怠ノ色ナク益々内外ノ信賴ヲ亨テ努力シ克ク教育ノ普及發達ニ力ヲ致シ自治民育ノ向上進展ニ貢獻スル等其ノ効績洵ニ顯著ナリトス仍テ銀盃壹組ヲ授與シテ茲ニ之ヲ表彰ス

大正七年十月三十一日

山口縣阿武郡長正七位勳六等 岡村 勇二

阿武郡嘉年村書記

水 津 忠 太

明治三十六年職ヲ嘉年村役場ニ奉シテヨリ勳績實ニ二十有五年其ノ間恪勤精勵常ニ意ヲ事務ノ整理改善ニ注キ及能ク村長ヲ輔佐シテ村治ノ啓發進展ニ努力シ自治ノ發達ニ貢獻スル所尠ナカラス其ノ効績洵ニ顯著ナリトス仍テ銀盃壹組ヲ授與シテ茲ニ之ヲ表彰ス

大正七年十月三十一日

山口縣阿武郡長正七位勳六等 岡村 勇二

事蹟概要

阿武郡佐々並村長

勳七等

山崎 文輔

明治元年四月十二日生

資性温厚篤實意志鞏固ニシテ自重ノ念深シ明治十八年佐々並村戸長役場御用掛ヲ奉職シ自治制布カレテ以來同村書記トナリ精勵能ク範ヲ吏僚ニ垂レ三十年更ニ助役ニ進ミ三十四年遂ニ推サレテ村長トナリ重任今日ニ至ル自治事務ニ盡瘁スルコト前後ヲ通シテ實ニ三十有餘年ノ久シキ及ヒ村長ノ職ニ在ルコト茲ニ二十有二年本郡ニ於ケル永年勤績者ノ最タルモノナリ職ニ膺リテハ銳意身ヲ以テ一村ノ興隆ヲ圖リ村民ノ推稱敬慕殊ニ厚シ部下吏員亦能ク信服シテ之ヲ補佐シ一致協力事ニ當ルノ美風アリ如斯ニシテ村會トノ關係亦最モ圓滿ニシテ常ニ平穩ノ裡ニ議事ヲ了ス村事務ノ整理ニ就キテハ深ク意ヲ用ユル所アリ記録簿冊ノ編綴保存ハ全部之ヲ縦式ニ改メ村民ノ權利ニ關スル簿冊ハ全部クローニ表紙ヲ附ス等用意周到ナルモノアリ而シテ本村役場ノ改築ハ年來ノ問題タリシモノナリ多年財政ノ案配ニ意ヲ致シ漸ク其ノ財源ヲ得ルノ方法備リ遂ニ大正六年工費四千餘圓ヲ投シテ地ヲ至便ノ位置ニ選定シ移轉改築ヲ斷行ス建物ノ内容設備能ク整ヒ外觀ノ井然ト相俟テ郡内稀ニ見ル所ナリ本村モト公租滯納ノ弊習アリテ容易ニ之ヲ矯正ノ實ヲ學クルコト能ハサリシカ明治四十二年納稅獎勵規程ヲ設ケテ完納部落ニ金員ヲ交付シ

或ハ納稅報知旗ヲ掲ケテ一般ノ注意ヲ促シ各種會合ノ機會アル毎ニ納稅思想ノ喚起向上ニ努ムル等百方獎勵ノ効果空シカラス遂ニ其ノ年ヨリ現今ニ至ル十有餘年間嘗テ一人ノ滯納者ヲ出サス能ク完納ノ實績ヲ舉グルニ至レリ村ハ地勢ノ關係上二小學校一分教場ヲ有ス明治三十三年高等科ヲ併置シ大正六年校地ノ擴張ト同時ニ巨額ノ費金ヲ投シ改築増築ヲ決行シテ設備漸ク備ハレリ其ノ内容ハ溝部校長以下職員一致ノ努力ニ依リ近時一段ノ進歩ヲ認ムルニ至ル在郷軍人分會ハ近ク會員全部ニ亘リ軍服ヲ調製セシメ規律嚴正動作態度ノ敏捷ナルコト隣村明木村ノ夫レト相併ヒテ一頭地ヲ抜キ簡閱點呼ノ成績最モ優良ニシテ他ノ以テ範トナスニ足ル大正二年ヨリ大正六年ニ亘リ村民有林野境界整理ノコトヲ企劃シ幾多ノ難關ヲ排シテ之ヲ整理統一シテ村民有ノ區劃ヲ明瞭ナラシメ公有林野ノ入會關係多ク他郡ニ關係ヲ有スルモノアルカ故ニ之カ分割整理ノ實行最モ困難ヲ極メ屢々關係町村ト協議ヲ重ヌルモ利害相反シ議事容易ニ纏マラス此間斡旋最モ努力シ遂ニ大正六年十一月入會關係ヲ解決シ林野全部ノ整理ヲ完了スルニ至レリ又産業ノ改善發達ニ留意シ殊ニ近時最モ力ヲ副業ノ獎勵ニ致シ成績見ルヘキモノアリ明治四十一年村

內有志ト共ニ信用組合ノ設立ヲ提唱シ之ヲ實現スルヤ
選レテ監事ノ職ニ膺リ盡瘁スル所アリ爾後組合ノ事業
漸次穩健ナル發達ヲ遂ケ最近組合員ノ貯金總額十四萬
圓ニ上リ今ヤ郡内ニ於ケル最モ優良ナル組合タルニ至
ル而シテ放資セル金額ハ既ニ八萬圓ヲ超ヘ殆ント全組
合員ニ普及シテ各種産業資金ニ融通セラレ本村産業ノ
發達ニ貢獻セル所抄シトモス斯クテ村民勤儉ノ美風ニ
富ニ民資充實シテ咸其業ニ安ンシ眞ニ平和ノ一郷タリ
村長ノ努力功績亦顯著ナリト謂フヘシ

阿武郡見島村長
勳八等 長谷川房次郎

資性温厚ニシテ謹直資産名望共ニ村内第一位ニ在リ明
治二十三年山口縣師範學校卒業後尋常小學校訓導トナ
リ職ヲ見島小學校ニ奉スルコト十一年同三十四年四月
衆望ヲ荷ヒ村長ノ要職ニ膺リ爾來重任シテ今日ニ至ル
在職年數實ニ十有七年其ノ間恪勤精勵一日ノ如ク能ク
部下ヲ統率シ事務ノ改善ニ意ヲ用井村治ノ伸展ニ力ヲ
致セリ助役多田正一事務ニ練達シ能ク村長ヲ輔佐シテ
村務ノ改善ニ努力ス收入役以下亦其人ヲ得協同緝睦

明治貳年七月貳拾日生

能ク事務ノ整善ニ勵ミ常ニ自己ノ修養ト事務ノ研究ト
ニ意ヲ入リ村長吏員間ノ情誼恰モ父子ノ如ク和氣霽々々
ルモノアリ夙ニ事務室ヲ改造シテ土間式トナシ村民ノ
應對接遇ニ意ヲ用ヒ一般願届ノ如キ殆ント吏員ヲシテ
之ヲ代書セシメ事務ノ敏速ト費金ノ節約ヲ圖リ記録簿
冊ノ編綴保存適當ニシテ全部之ヲ縱式ニ改メテ索引ニ
便ナラシム文書處理ノ如キ概ネ即日之ヲ行フテ例トシ
管テ滯滞ノコトアルヲ見ス理事者ト村會トノ間亦能ク
融合調和シ議事極メテ圓滿ナリ町村制實施以來村長ノ
提案ニ對シテ殆ント修正削減スルコトナシ納稅獎勵ニ
就キテハ從來幾多ノ方法ヲ講シテ滯納矯正ニ努ムル所
アリシカ國稅及縣稅ニ於テハ多年每期完納ノ實績ヲ收
メタルニ係ラス村稅ニ於テハ容易ニ滯納者ヲ減少スル
ニ至ラス固ヨリ村民多年共同負債ノ償還ニ没頭シ爲ニ
村稅ヲ顧ミルノ餘地ナク當局亦之ヲ默過シタルノ餘弊
多年ノ惰性ヲ馴致シタルモノニアラサルナキ乎昨年來
村長深ク意ヲ決スル所アリ吏員及區長ヲ督勵シテ滯納
矯弊ニ力ヲ致シ大ニ村民ノ自覺ヲ促シ大正七年度ニ入
リ國縣村稅ヲ通シ始メテ一人ノ滯納者ナク每期完納ノ
實績ヲ學クルニ至レリ

村ニ尋常高等小學校一、實業補習學校一ヲ有シ公學費

貳千五百圓ヲ要ス舊小學校舎ハ明治卅年ノ建築ニ係リ
年月古シト云フニアラサルモ腐朽頽廢甚シク改築ノ必
要ニ迫レルモ多年巨額ノ共同負債ヲ有シ之ヲ償還ニ全
力ヲ傾注セルカ故ニ容易ニ校舍改築ノ運ニ至ラス僅ニ
前後ニ支柱ヲ施シ應急修理ヲ加ヘテ其不便ヲ忍ヘリ偶
々共同負債全部償還ヲ了ルヤ直ニ改築ノ議ヲ提ケテ廣
ク有志ノ寄附ヲ募集ス是レ實ニ大正二年ノ事ナリトス
村長率先自ラ金八百圓ヲ寄附シテ範ヲ示ス村民忽チ相
呼應シ四十四年以降共同紀念貯金中ヨリ寄附スヘキコ
トヲ約シ僅々二日間ニシテ其ノ寄附金額壹萬貳千八拾
圓ヲ得直ニ村會ヲ開キテ校地校舍ノ移轉改築ヲ決議セ
リ大正四、五兩年ニ亘リ新ニ地ヲ相シテ校舍全部ノ移
轉改築ヲ竣ヘ大正五年七月知事ノ貴臨ヲ仰キテ其ノ落
成式ヲ舉行セリ思フニ共同負債ノ創痍僅ニ癒ヘ民力未
タ回復ノ餘裕少ナキニ係ラス如斯其ノ大事業ヲ決行ス
ルニ至リシモノ偏ニ厚東駐在郡書記ノ努力ト村長ノ熱
心ト相俟チテ籌策宜シキヲ得タルノ結果タラスンハア
ラス而シテ學校ノ内容ハ長松校長以下職員何レモ克ク
協力熱心其ノ職ニ勵ミテ施設其ノ當ヲ得兒童訓育ノ成
績殊ニ良好ナリ在郷軍人分會亦指導宜シキニ適ヒ規律整
正士氣旺盛ナリ青壯年團亦能ク在郷軍人分會ト提携シ

テ修養訓練ニ努メツ、アリ農事改良ニ就キテハ厚東駐
在郡書記ノ指導ト相俟チテ種子ノ改良肥料ノ配合害蟲ノ
驅除ニ關シ督勵ヲ加ヘ漸次改良ノ實ヲ舉ケ各種ノ品評
會ノ開催ト共ニ効果見ルヘサモノアリ牛ハ本村唯一ノ
副業ニシテ古來最モ名アリ其ノ産額年々追フテ増加シ
最近年間ノ産牛二百五十頭ヲ數ヘ畜牛ニ依ル一年ノ收
額優ニ五千圓以上ヲ算スヘシ又水産業ノ發達ニ就キテ
ハ夙ニ意ヲ致セル所ニシテ漁具漁船ノ改良ニ重キヲ置
キ專ラ其ノ多收多益ニ努メ亦近ク漁港修築ノ必要ヲ提
唱シ目的達成ニ努力スル所アリ往年日露戰爭ニ當リ本
島ニ開設セラレタル電信事務ハ戰局ノ終了ト共ニ撤廢
ノ議起リシモ厚東駐在郡書記ト共ニ存置ノ緊切ナルコ
トヲ力説シ斡旋大ニ努メ遂ニ其ノ効ヲ奏シ爾來本島ニ
於ケル唯一ノ通信機關トシテ持續セラレツ、アリ
村長在職中ノ効蹟トシテハ更ニ大ニ特筆シテ記述スル
所ナカルヘカラサルモノアリ即チ村民共同負債ノ償還
之ナリ抑々本島ノ共同負債タル遠ク三十有餘年前ニ其
ノ端ヲ發セリ當時連年本島旱損害風害頻リニ臻リ島民
各自衣食ニ窮乏ヲ來シ一面奢侈ノ風村ノ根蒂ヲ破壞シ
民資涸渴シ村外ニ債主ヲ索メテ各自多額ノ負債ヲ起シ
遂ニ島民ノ財産擧ケテ一資産家ノ私有ニ移リ困憊ノ情

益々甚タシキモアルニ至レリ當時ノ郡長大ニ之ヲ憂慮シ郡衙ヨリ監督書記ヲ特派シ指導監督ノ任ニ當ラシメ之カ救済ヲ圖ラントシ三十二年十月厚東郡書記ヲ任用シ駐在ヒシムルニ至レリ同人其任ヲ亨ルヤ至誠以テ神明ニ誓ヒ共同負債ノ整理ヲ畢生ノ任務トシ家政ハ學テ之ヲ妻子ニ委ネ其ノ任務ヲ了ヘサレハ生還ヲ期セサルノ決心ヲ以テ本村ニ赴任シ或ハ共同負債者總代又ハ組長世話係等ヲ集メテ償還ノ方法ヲ講シ或ハ各戸ヲ説キテ負債者一同ノ決心覺悟ヲ促シ一面勤儉ノ規約仕組法ヲ設定シテ勵行ヲ期セリ三十四年自ラ村長ノ職ニ就クヤ決心愈々深ク堅ク厚東郡書記ト約シテ負債償還ノコトニ全力ヲ傾注セリ爾後迂餘曲折幾多ノ困難ニ遭遇セシモ堅忍不拔能ク之ヲ排シテ熱心盡力セル結果遂ニ明治四十四年八月ニ至リ負債ノ全部ヲ償還スルニ至レリ明治十八年貳萬餘圓ノ共同負債ヲ起シテヨリ四十四年全部ノ償還ヲ了スルニ至ル迄年ヲ關スルコト二十有七年其ノ間償還シタル金額十二萬六千九百圓ニ雜費ヲ加算スルトキハ實ニ十三萬七千五百圓ノ巨額ニ達セリ翌四十五年二月土地買戻シノ手續ヲナシ所有權者堀藤十郎ヨリ買戻登記權利者三百四名ニ對シ賣渡ノ登記ヲ了シ茲ニ始メテ本村民ノ所有權ヲ回復スルニ至レリ

然ルニ村長ハ厚東郡書記ト共ニ此際ニ於テ村民ノ情氣自然ニ生シ若シ再ヒ前轍ヲ履ムカ如キコトアラシカ折角ノ救済水泡ニ歸センコトヲ虞レ負債償還ト共ニ見島共同紀念組合ナルモノヲ設置シ諸事節約ヲ主トシ共同緝睦勤儉產ヲ治メシムルコトヲ約シ更ニ大正三年戊申會ヲ設立シテ村内戸主全部ヲ網羅シ規約十二ヶ條ヲ定メ其ノ實行ヲ期シ益々郷黨ノ覺醒ヲ促シテ地方民心ノ改善ニ貢獻シ以テ今日アルニ至ラシム其ノ功績洵ニ顯著ナリト謂フヘシ

阿武郡多磨尋常高等小學校訓導兼校長
兼田万崎村立多磨圖書館長

櫻井民次郎

明治三年六月十二日生

資性温良ニシテ篤實幼ヨリ學問文藝ヲ好ミ將來身ヲ以テ師範ノ職ニ盡カンコトヲ志シ明治二十年九月山口縣尋常師範小學校ニ入り同二十四年三月同校ヲ卒業シ開蒙尋常小學校訓導ニ任セラレ其ノ首班トナル當時三學級以下ノ小學校ニハ校長ヲ置クノ制度ナク首席訓導ヲ以テ諸般ノ教育事務ヲ處理ス訓導就職後専ラ學校ノ施設及教授訓練ノ改善ニ努メ農閑ノ期ヲ利用シテハ夜間各部落ニ出張シ幻燈ヲ使用シテ懇切ニ教育ノ必要ヲ説

キ傍ラ學校ト家庭トノ連絡ヲ計リ父兄兒童ノ向學心ヲ喚起シ更ニ進メテ卒業生ノ學力補習ノ必要ヲ認メ新ニ補習科ヲ設ケテ之ガ教養ニ努メ後日高等小學校設置ノ準備ニ資セリ明治二十九年四月大井尋常小學校訓導兼校長ニ轉任シ校舍ノ設備教授管理等ノ改善ニ努力スル所アリシガ在職僅ニ一年有餘ニシテ育英尋常高等小學校訓導ニ轉任セリ同校轉任後ハ時ノ校長竹内新三郎ヲ輔佐シ専ラ同村教育ノ普及上進ニ努力セリ明治三十二年三月再ヒ大井尋常高等小學校訓導兼校長ニ轉任ス當時高等小學校併置創設ノ際ニ屬シ其ノ設備不完全ナルモノアルヲ慨キテ校舍改築ノ機運促進ト共ニ教辦教具ノ充實ニ苦心シ且ツ教授訓練ノ上一段ノ力ヲ加ヘ一面青年夜學會ヲ起シテ學力補習ニ力ヲ致シ尙卒業生ノ連絡ヲ圖ル爲メ同窓會ヲ組織シ青年ノ指導誘掖ニ盡力シ其ノ効果甚カカラシシガ同三十六年五月明木尋常高等小學校訓導兼校長ニ轉任セリ爾來校舍ノ修築並教辦教具ノ整理充實ノ計畫ヲ立テ設備ノ改善ニ力ヲ致スト共ニ教授法ノ研究ヲ怠ラス殊ニ自學主義ノ徹底ニ努メ又兒童體育ヲ尊重シ体操會ヲ設ケテ体操教授ノ統一向上ヲ期シ或ハ教育品展覽會ヲ開催シ部落學藝會ヲ開設テ獎勵シ又父兄懇話會及父兄總代會ヲ開催シテ學校

ト家庭トノ連絡ヲ圖リ兼テ父兄ノ教育思想ヲ向上セシムル等成績見ルヘキモ多シ此外兒童就學出席ノ獎勵學校園學校林ノ設置學校基本財産ノ増殖ニ努力シ又多年ノ宿望タリシ校舍改築ノコト百方之ヲ促シテ大正五年四月其ノ工ヲ竣ヘテ落成ノ式ヲ舉行スルニ至レリ學校教育ノ外青年會ヲ設立シ青年ノ風儀ヲ矯正シ擊劍角力等ヲ獎勵シテ心身ノ鍛練ヲ圖リ造林ノ地帯植樹中刈桑園ノ植付ヲ入等ヲナサシメ共同的精神ヲ養ヒ或ハ尙齒會ヲ開催シテ高齢者ヲ尊重優遇スルノ念ヲ高メ更ニ進メテ青年教育ト對應シテ女子因會ナルモノヲ起シ各種ノ講習講話會ヲ開キテ女子ニ須要ナル智識技能ヲ修得セシム又明治三十七八年役ノ戰勝紀念事業トシテ圖書館設置ヲ提唱シ同村名望家龍口吉良氏ニ圖リ同氏ノ援助ヲ得テ更ニ村當局ト熟議ヲ遂ケ其ノ設立ニ斡旋盡力シ明治三十九年十月之ガ設立ヲ見ルニ至レリ當時圖書館ハ縣下ニ其數一、二ヲ設クルノミニシテ郡内ニ於ケル町村立圖書館ノ嚆矢トス爾來之ガ經營ニ怠ラス巡回書庫ノ制ヲ定メ各部落ニ回送シ地方讀者ノ便ヲ圖リ大正三年ヨリ尋常科第五學年以上ノ各學級ニ兒童文庫ヲ備付ケ閑時ヲ利用シテ讀書ノ趣味ヲ養成セシムル等同村教育ノ面目ヲ改メ民心ノ開發教化ニ貢獻スル所甚

シトセサルナリ
 大正六年三月多磨尋常高等小學校訓導兼校長ニ轉任ス
 着任以來銳意國語理科体操等ノ教授法改善ニ主力ヲ注
 キ兒童ノ体育及就學出席ノ獎勵ニ怠ラス又深ク教養ノ
 整理充實ニ意ヲ用ヒ着々其ノ歩ヲ進メツ、アリ殊ニ前
 任校長方二郎ノ大正五年十一月立太子禮記念事業ト
 シテ兒童報德會ヲ設クルヤ其ノ後ヲ受ケテ専ラ之カ助
 長發達ニ力ヲ致シ尙ホ地方報德會ノ振興ヲ圖リ世道人
 心ノ改善ニ貢獻スル所多シ而シテ青年團ノ振興ニ就キ
 テハ体育ノ獎勵ト同時ニ補習教育ノ徹底ニ留意シ本年
 四月ヨリハ別ニ女子補習會ナルモノヲ設立シ毎月一回
 處女ヲ集合セシメ婦徳ノ涵養學術技藝ノ修得ニ努メツ
 リ、ア
 明治二十四年三月始メテ教育ノ業ニ從事セシヨリ茲ニ
 二十有七年其ノ間恪勤精勵毫モ倦怠ノ色ナシ其ノ職ニ
 在ルヤ至ル所可ナラサルハナク崇高ナル人格ハ能ク部
 下職員ヲ徳化シ常ニ克ク悅服シテ水ク其ノ僚儔ニ立チ
 テ勤務スルヲ願ハサル者ナキト共ニ父兄ノ信頼又最モ
 厚ク其ノ親情恰モ赤子ノ慈母ニ於ケルガ如ク其ノ徳望
 校ノ内外ニ洽ク事ヲ行フヤ用意周到準備ヲ整ヘテ急カ
 ス專ラ不言實行ヲ旨トシ着實穩健ナル發達ヲ期シ時ニ

教育調査委員會ノ委員トナリ或ハ教育會ノ評議員トナ
 リ或ハ又教員部會ノ會長トナリ誠實熱心克ク教育改善
 進歩ニ勵ミ民育ノ向上伸展ニ努メツ、アルハ眞ニ良教
 育者ナリトシテ之ヲ推稱スルニ足ルモノナリ今後益々
 自重自奮シテ其ノ天職ヲ全フセンコトヲ望ム

阿武郡嘉年村書記

水津 忠 太

明治二十一年一月一日生

明治三十五年嘉年村立尋常高等小學校卒業スルヤ身
 ナ教育界ニ委ネント欲シ其歳春教員檢定試験ヲ受ケ之
 ニ合格シ尋常小學校准教員ノ免許狀ヲ得タルモ當時村
 役場ニ缺員アリ村長ノ切ナル懇望ニヨリ同三十六年十
 月ヲ以テ嘉年村役場臨時雇トナリ翌三十七年八月拔擢
 セラレテ同村書記ニ採用セラル爾來勤績シテ今日ニ至
 リ現ニ同村役場ノ首席書記タリ資性温良ニシテ篤實友
 ニ交ルニ情義厚ク人ニ接スルニ頗ル親切ナリ在職十有
 五年間終始一日ノ如ク會テ倦怠ノ色ナシ殊ニ最モ其力
 ナ財務ノ整理ニ致シ常ニ法規 研究ヲ怠ラス能ク事務
 ニ精通熟達シ其ノ擔任事務ノ整頓郡内多ク其比ヲ見ス
 主管事務以外能ク村長ヲ輔佐シテ一般自治事務ノ整理
 刷新ニ力ヲ致シ及能ク同僚ノ爲ニ喜ンテ力ヲ添ヘ協同

一致ノ美風ヲ保チ役場内ニ於ケル事務研究ノ中心タリ
 更ニ外ニシテハ區民トシテ其ノ住スル所ノ土居部落ノ爲ニ
 盡瘁スル事尠カラス現今土居部落ニ於ケル報德會出
 席者毎回百分ノ六十乃至七十ノ間ニアルモ尙出席者ノ
 少ナキヲ遺憾ナリトナシ土地ノ宗教家區長等ト相謀リ
 有志數人ニ於テ若干ノ金員ヲ齎出シ福引其他適切ナル
 方法ヲ講シ以テ出席ノ増加ヲ計リ或ハ納稅義務ノ重大
 ナルヲ説キテ督勵ヲ加ヘ大正三年以降一人ノ滯納者ヲ
 出サ、ルニ至レリ亦多年青年會支部長トナリ或ハ在郷
 軍人分會ノ幹事トナリテ貢獻スル所アリ會員ヲシテ一
 致協力其ノ發達ニ資スルノ美風ヲ養ヒ青年團改造後ニ
 於テハ更ニ進ンテ擊劍ノ練習ヲ開始シテ團員ノ体力氣
 力ノ向上ニ力メ補習教育ヲ勸奨シテ青年ノ修養ニ力ヲ
 致シ一面亦永年村會議員トシテ勤續セル實父園右衛門
 等ト共ニ大ニ副業獎勵ニ力ヲ加ヘ殊ニ畜牛及養蠶ノ業
 頗ニ勃興シ現今村内第一ノ優良部落トシテ推稱セラル
 、ニ至レリ固ヨリ之レ父園右衛門ヲ始メ宗教家區長其
 他有力ナル人々共同一致ノ力ニ基キ其ノ實績ヲ學グル
 ニ至リタルモノナリトスルモ亦以テ君カ陰ニ其ノ後援
 者トナリ指導啓發ニ努力シタルノ結果タラスンハアラ
 ス曩ニ父園右衛門逝去ノ不幸ニ遭ヒ憂愁ノ涙未タ乾カ

サルモノアルヘシト雖モ君能ク先人ノ意思ト努力ヲ繼
 承シテ今後益々地方開發ノ爲メニ貢獻スル所アラハ先
 人追慕ノ誠ヲ致ス所アルノミナラス亦以テ自治民育ノ
 中心人物トシテ一段ノ光輝ヲ添フルニ至ルヘシ切ニ其
 ノ自重自奮ヲ望ムテ止マサル也

庶務

町村長集會

十月十七、十八日の二日間郡内町村長集會を開催し當日
 指示したる事項其の他左の如し

指示事項

- 一、町村吏員並小學校教員優遇に關する件
 - 二、納稅獎勵に關する件
 - 三、報德會振興に關する件
 - 四、免因保護事業に關する件
- 注意事項
- 一、飲料水改良に關する件
 - 二、細民調査の件
 - 三、統計調査に關する件

- 四、軍事救護法の普及徹底に關する件
- 五、帝國在郷軍人分會と青壯年團との聯絡に關する件
- 六、戶數割議定標準に關する件
- 協議事項
- 一、町村吏員並小學校教員臨時手當支給に關する件
- 二、在郷軍人軍服調製に關する件
- 三、戰病死者村葬に關する件
- 四、外米輸送に關する件

條例許可

大正七年十月十四日 見島村有給吏員退職及死亡給與金條例

兵事

軍事救護

本郡内現役及應召軍人下士卒の家族にして本年九月一日以後軍事救護法に依り救護を受くるもの左の如し

月	日	給與種別給與金額給與資格	町村名	氏名
九月	二日	計扶助 三四〇	萩	岩井ヨシ
同	同	二〇〇	吉部	山下磯吉

同	同	二五〇	同	紫福	大谷フキ
同	同	一八〇	同	見島	山口トメ
同	同	一二〇	現役者家	吉部	木橋シズ
同	同	一八〇	同	同	末成モミ
同	同	一九〇	同	同	金子キク

産業

山葵栽培状況視察記

阿武郡農業技手 藤井二郎
阿武郡農業技手 光永隆信

山葵栽培状況視察のため十月二十日出發島根縣美濃郡四見上村へ出張し十月二十四日歸萩す左に其狀況を記し參考に供せんとす

一、地勢 匹見上村は益田町を去ること南へ九里餘にして廣島市は同村の南十四里の地にあり、即ち山陰山陽兩道の境界線たる山脈に當り其の交通は益田町へ達するに至便とす、益田町より同地に至るには豊川村を経里餘の峠を越ゆれば匹見下村に達す而して道路は山地の急斜面に沿ひて作られ此道路を通行する者は天を

仰げば山頂遙かに雲を突くの所あり山谷を臨めば脚下は即ち斷崖絶壁數千丈にして幽かに清流を眺め約二里の間絶へて人家を見ず道路は適當の勾配にして漸次進むに従ひ漸く匹見川の流に沿うて田地人家を見里心地を感ずるに至る、而して匹見川の右岸に沿へる道路を進めば匹見下村字澄川に至る同地には村役場巡查駐在所ありて田舎店の二三を見る又川畔に蘆葦の清楚なる宿屋あり匹見川は川幅七八間にして流水清澄岩石多きため舟楫の便なきも伐採せられたる材木は此流れを利用して高津川に下し數人の流夫互に奮力を手し彼の岩より此の岩に飛び移りて働ける有様は恰かも一幅の活畫を眺むるの感あり又川岸には數十尺の巨岩屹立し珍らしき羊齒類青々と繁り植物愛護者をして垂涎せしむるものあり、斯る仙境の間を歩くこと數里にして漸く匹見上村字野入に達せば匹見上村役場あり益田匹見間は道幅六尺の郡道にして今を去る十年前に改修したるものなりと云ふ路面は中等なれ共辛むじて車馬の交通することを得るものなり先づ村役場に至り山葵栽培状況視察の爲來村したる旨述べ案内を求めしに山葵の栽培地は村役場を去ること二里乃至三里の山奥にして山路なるため徒歩に非ざれば行くこと能はずと云ふ日

は已に西天に傾ける午後五時過なれば役場前の富川屋なる宿屋に投宿し明二十二日朝山地に入ることをせり役場の通知により其の夜田中鹿治なる山葵栽培熱心家來訪し種々有益なる山葵栽培談を聴き明朝案内のことを約して歸れり
明ければ二十二日握り飯を腰にして田中鹿治の案内により溪流に沿うて山奥に進む山樹は栗櫻櫻榊山櫻楓椒の類にして何れも周圍數尋の老木枝條に至る迄苔を生じ更に鳥聲を聞かず、之れ山里を離れて漸く深山に入りたるものにして行程約二里畫尙寒く寂莫層に冷氣を感じ幽邃の趣眞に身を仙境に置く心地とぞするミカツラ山なる溪谷に至れば漸くにして山葵の栽培しあるを見る其の間約十二三町にして岩石にて堤防を造り流水は谷の一方に沿ひて幅二尺を流る、如くし山葵田の改良法は幅二間乃至四間にして一區劃の面積狭きは二三坪廣きは十坪あり在來法は傾斜に従ひ一連の溪谷に栽培しあるを見る
二、沿革 匹見上村は既に百數十年前より山葵を栽培したるものなれ共唯在來法を行ふのみなれば次第に荒廢に歸するの有様なり依て數年前島根縣は靜岡縣志太郡東川根村小野田幾太郎を教師として改良法を普及せ

しめんどし指導に努力する所ありしも當時耳を傾くる者少し中に元村會議員田中鹿治は熱心に其の教示を受け更に郡の調査を命ぜられて静岡縣に小野田氏を訪ひ伊豆天城山の栽培状況を實地に調査し歸來銳意熱心自ら其の栽培に勵み又能く地方の指導者として山葵田の改良擴張に努力せり

當村は戸數五百にして田地百六十町歩村有林野七千町歩の農村なるが山葵の栽培反別十町七反歩、産額壹萬一千貫、價格一萬六千圓にして實に美濃郡産額の六割を占む本村に次では匹見下村二條村あり
本村には一千圓内外の収益を見るもの三、四戸あり、多くは五六十圓乃至二三百圓のものにして栽培者二百餘戸を算す近き將來に於て山葵出三町歩、七萬五千圓の産額に達するの見込みなりと云ふ

三、品 種 山葵の品種は葉柄の着色根莖の形状等により數種に分て此本地方に栽培せるものは青莖種にして山葵中最も良種にして軟芽淡桃色を帯ぶるも成長するに從ひ漸次其の色淡くなり充分發育すれば青色に變じ根莖部も亦青色を呈す故に此名あり
栽培容易にして發育旺盛葉部根莖部共に肥大し從て收穫多量品質優良なるを以て市價亦高し

四、繁殖法 分根法にして山葵は里芋の如く根莖部より數多の子莖を生ずるを以て收穫の時根莖を賣品とし子根莖の優勢なるものを苗として(莖を五寸位の所より切りて植ふると其の儘植ふるとの二様あれ共生育收量には差支なきが如し)植付るなり普通一株より二三本の苗を得るものとす

五、土 地 山葵の生育に適するは深山幽谷常に冷かなる清水の湧出する溪谷にして五度乃至十度の傾斜を有し北に面せるもの多し
而して水質土質附近の林相は生育に大なる影響を及ぼすものなり

一、水 質

イ、有機物を含むこと極めて少くニナアチミドロあるべからず

ロ、沈澱物なく清澄なる流水にして洪水の害を受けざる所を良しとす

ハ、水は四季潤澤にして枯渴せざる所なるべし

ニ、夏と雖冷かにして十二月より三月迄は結氷を見らる普通とす

ホ、末流は水源よりも氣温の影響を受け易きを以て山葵田は水源に近き所たるべし

二、土壤及砂礫 火成岩質大部分砂にして其の上部は直徑五分乃至三寸以下の大岩石の破片なるべし
三、附近林相 樹木生茂り枝間を通して幽かに日光の射入する所たるべし

六、開 墾

一、山葵田の構成 通常階段を設けて一段毎に二坪乃至十坪の田面を形成す最下部より着手し順次上部に及ぶ、最初土臺を入れて堤防を築き漸次積上ると同時に田床を作る然して上部より水を引き入れ鍬を以て攪拌しつゝ腐植土を洗ひ流し下に細り上に大なる礫を厚さ五寸乃至八寸位となすべし

二、水路作り 栽培地の一侧に石垣を設けて小路を造り過剰の水を流失せしむ各段上部に幅五六寸の溝ありて水は田の一面に行渡り礫間を流れて次階段の溝に入る如くすべし

七、栽培法 山葵田に苗を挿植するに當りては多量の水を流入せしめ鍬にて能く掘り汚物を去り苗を植込むものとす

植付季節は在來法にては十一月頃に限られたれ共改良法にては時期を選ばず、種苗は成る可く強硬に且つ莖着部の大なるものにして病害のなきものを選

ふべし

植付るには鍬を砂礫に打込み片手に苗を持ち中指元を植付基準とすべき點に當て其の指先が水に達するを度とし流水の方面に斜に一本宛(在來法は一株一本植へなり)葉の基部迄砂礫中に挿し込むものとす而して苗の下部は細き砂礫にて被ひ上部は大なる砂礫を以て覆ふべし(伊豆にては直徑七八寸乃至一尺以上の植石を用ふれ共静岡は石細し)植付たる各苗の上部に直徑四五寸の石を蓋ふべし

水源は一般に生育盛にして末流に從ひ漸次衰ふると以て上流は粗植に末流は密植す、株間は八寸列間七寸位即ち一坪六十四本植位なれ共苗の優劣十地良否により疎密の度を斟酌すべし

山葵の肥料に就ては確たること判明せず然れ共永年之を栽培する時は漸次生育不良となるものなれば斯る際は再び土壤の鋤き返しを行へば成績自然復活するものなり、肥料分は土壤及水中の成分にて事足り特に施肥するの要なきものと思惟せらる

八、保護及手入 山葵は施肥中耕を要せず栽培中の管理として用水の灌溉除草及病蟲害の驅除等に過ぎずして頗る簡易なるものなり

一、灌漑 植付後は山葵田の水門より水を引入る水門とは栽培地を圍繞せる石垣の上部端水は常に水門に入るに先ち少時停滞し若し水中に汚物あらば沈澱せしめて然る後栽培地に入る、様なし置くべし
 而して用水の上の一段より下に降る時に石垣中突出せるものある時は水泡を生ぜること大にして水泡の飛散によりて葉面の黄色を呈し生育を害するを以て斯る場合は石垣の間隙に杉の下枝若しくは粗朶類を挿入すべし、而して水量の變化は發育に密接の關係あるを以て特に留意すべし、其の適量は大凡山葵葉莖の基部迄即ち田面より云へば上層に配置せる稍大なる砂礫の半迄潜流するを適度とす、然れ共春季開花の時より大暑の候迄は比較的多量を要し秋は大氣の温度下るを以て其量少きも發育に故障なきもの、如し、冬季寒烈なる地にては水害を受くるを以て成る可く水量を増加し水滴の飛散を防げり、一般に水量少き時は害あれ共多き時は被害を見ること稀なり然れ共大雨の際石垣を破壊し栽培地を荒廢することあるものなれば排水に注意すべし

二、除草 山葵田は彼の稻田の如く雜草發生すること稀にして巡視の際石垣に生ずるものを抜き去れば事足れ共其周圍の雜草は年一二回刈除すべし、尙田中に枯草落葉等の落入せるを除去すべし
 九、病蟲害の防除 土質惡しきがため泥土の沈澱を來し山葵に一種の病狀を呈することあれ共多くは此病害に非るを以て特に清潔にすべし、在來法には其のために莖に黒痕を帶ぶるもの多し
 害虫としてはもんしろてふ すはくろてふの幼虫發生すれ共其被害餘り大ならず
 一〇、收穫 山葵は殆んど定まれる收穫季節なく四季其の需要に應じて採掘し得るものなれ共植付後大ヶ月を経たる時を最も可とす、斯く一定の採收季なけれ共栽培保護の點より大抵秋季採收せり掘り採りは水源より漸次末流に及ばし鎌にて葉莖の中間を刈りたる後鎌にて株の少し遠くより根莖を傷けざる様下方より上方に向ひ深く地盤迄掘り起し鬚根を去り一株數本の内前年植付の大莖を賣品とし充分發育せる分莖を次の苗とす、平均一本の量目二十匁前後にして其の收量を通常一坪五百匁乃至七百匁なり
 相場は變動あれ共近年十貫匁二十五圓乃至三十圓なり

り、一坪の收入一圓五十錢内外なり
 荷造りは竹籠に入れ六貫位を一個とし遠地へ送るものは鬚根の下部十分の二三を残し近地に送るものは全部を取り去るを普通とす
 山葵栽培に用ふる鋤は静岡縣より一個一圓四五錢にて買入たるものにして形状竹葉中央部厚く縁近くに従ひ薄くなり長さ二尺二三寸の木柄を附す頗る堅牢にして而かも軽く三百匁内外なり
 二、收支計算 山葵は土地の適否價格の變動多く詳細の事不明なれ共一反歩に對する收支計算大畧左の如し
 支 出
 三十六圓 苗代 十貫二圓 百八十貫代
 三十圓 開墾費 一坪一人役一圓十五ヶ年間
 二十圓 植付及收穫費一畝二人役二圓二十人分
 六圓 管理荷造費其他
 計 九十二圓
 收 入
 二百八十八圓 根山葵百八十貫代 一貫一圓六十錢 一本十匁
 十二圓 子山葵代 六十貫代 一貫二十錢
 計 三百圓
 差引純益 二百八圓

結論 本郡の山葵栽培状況を窺ふに古來嘉年の徳佐山葵の名は遠きに及び朝鮮關門地方よりの注文織るが如し、此品たるや色澤濃青粘力強く風味良好辛味強烈にして隔かに匹見山葵に優れり
 品質優良需用旺盛なれ共供給之に伴はず従來の産額僅に嘉年彌富福賀を合して年七八十圓に過ぎざるの狀態なり
 匹見の狀況よりして本郡の山葵状況を案するに未だ顧みられざるの地に適地あり各地に散地せり、此際郡内山葵の適地調査及山葵栽培法の改良によつて阿武郡内山葵の發達に努めざるべからず

種牡牛種付成績
 阿武郡農會借受けに係る國、縣有種牡牛大正七年四月より同年九月に至る六ヶ月の成績左の如し
 一、種牡牛所有別種類

國	縣	所有別	種	改良種	洋種	計
有	有	和	種	種	種	計
			五	一	一	三
				二	一	入

阿武郡報

二、種付成績

種牡牛頭數	種付牝牛頭數	仔社牛	牝牛	牝牛	計數
一一	三七二	一三八	一五五		二三九

◎辭令

阿武郡長 岡村 勇二
 五級俸下賜(十月三十一日) 同 人
 叙高等官五等 福谷朝太郎
 任阿武郡技手給月俸壹圓(十月廿四日) 河村忠四郎
 山口縣農業技手ニ任ス
 月俸參拾壹圓給與(十一月六日) 阿武郡立實科高等女學校長
 叙從七位 齋藤 彦一
 叙正八位 同校教諭 中野 貞介
 叙正八位 樺郷東分村立樺東尋常高等小學校長 信國 顯治
 以上十一月十一日付

□小學校教員異動

新任

新任月日	校名	職名	俸給	氏名
十月十八日	龜山	准訓導心得	拾貳圓	長峰義章
十月十九日	三見	准訓導	七級上俸	村田タケヨ
十月廿一日	大井	准訓導心得	拾圓	松本靜子
十月廿三日	見島	同	拾八圓	河内壽之助

轉任

轉任月日	轉任校名	舊任職名	俸給	氏名
十月十九日	藏目喜大井	訓導	十級下俸	榮枝フヨ
同	明倫木間	同	八級上俸	池田彦三
同	樺東三見	准訓導	四級下俸	小島經彦
十月廿二日	大津郡見島	訓導	八級上俸	高 信一
同	同	同	七級下俸	高 喜里

退職ノ部

退職月日	校名	職名	氏名
十月十八日	藏目喜	訓導	市橋增壽男
同	福川	同	中村 薫

參考資料

阿武郡報

第二十八號

學校名	男	女	計	本 順 月	前 位 月
椿西	九九、六一	九九、五三	九九、五七	一	二
明木	九九、一二	九九、四七	九九、三〇	二	四
高瀬	九八、九六	九九、四〇	九九、一八	三	四
鈴野	九八、二六	九八、七二	九八、四八	四	五
福川	九八、二九	九八、五七	九八、四三	五	五
長見	九八、〇一	九八、四八	九八、二二	六	七
三田	九七、九四	九八、〇七	九八、〇一	七	七
半呂	九七、九六	九八、一八	九八、〇六	八	七
野島	九八、二一	九七、四九	九七、九四	九	九
大生	九八、三一	九六、八九	九七、五六	〇	三
篠野	九六、八二	九八、二〇	九七、五〇	一	三
立濱	九八、四一	九五、六五	九七、二四	二	三
越上	九六、九六	九七、三〇	九七、一三	三	六
川磨	九七、七六	九六、四九	九七、一七	四	五
多井	九六、八〇	九七、四四	九七、一〇	五	七
大井	九七、一八	九六、八六	九七、〇一	六	八
佐並	九五、三三	九八、六一	九六、九三	七	八
紫福	九七、二九	九六、四五	九六、八八	八	八

目次

一、町村立小學校兒童出席歩合調査表

二、米價暴騰に際し金品寄附施米及米廉賣總額調

三、大正七年度繭市場狀況

阿 武 郡 報

第二十八號

町村種目	高 俣	相 島	見 島	生 雲	本月平均	前月平均
彌富	九五、四五	九三、九六	九三、一四	九一、四〇	九六、二六	九六、二八
宇田	九九、三八	九九、五一	九九、〇七	九九、三七	九九、六六	九九、五五
福賀	九九、〇七	九九、三三	九九、五二	九九、五三	九九、〇〇	九九、〇〇
明生	九九、〇〇	九九、七二	九九、七二	九九、七二	九九、七二	九九、七二
大井	九九、八八	九九、八六	九九、八六	九九、八六	九九、八六	九九、八六
嘉年	九九、二六	九九、二六	九九、二六	九九、二六	九九、二六	九九、二六
福川	九九、一六	九九、一六	九九、一六	九九、一六	九九、一六	九九、一六
明倫	九九、二四	九九、二四	九九、二四	九九、二四	九九、二四	九九、二四
須佐	九九、〇八	九九、〇八	九九、〇八	九九、〇八	九九、〇八	九九、〇八
計	九一、七五	九〇、五八	八九、八一	八九、〇八	九三、四四	九三、四四
本 順	三九	四〇	四一	四二	一	一
月 分	一	二	三	四	五	六
前 位	四二	三八	四一	九三	二	二
月 位	二	二	五	三	一	一

(三)

阿 武 郡 報

第二十八號

町村種目	小 川	福 倫	明 坂	持 英	育 東	椿 山	龜 東	篠 目	木 間	下 川	彌 富	字 田	嘉 年	上 川	地 福	奈 古	藏 喜	德 目	吉 佐	白 水
小川	九六、六二	九九、七〇	九九、〇八	九七、四五	九五、七三	九六、二二	九六、一八	九五、一五	九五、二八	九四、四四	九六、二二	九四、三七	九六、三八	九四、九〇	九五、三三	九四、八九	九三、二三	九五、一六	九四、九三	九三、六二
福倫	九七、一二	九五、四五	九五、九六	九四、七二	九六、五一	九五、九四	九五、九七	九七、四五	九六、四四	九六、九三	九四、五三	九六、〇七	九五、〇九	九四、〇三	九三、四八	九三、一八	九四、四六	九二、四九	九〇、〇一	九〇、七五
計	九六、八六	九六、六〇	九六、五三	九六、二〇	九六、一〇	九六、〇八	九六、〇八	九六、〇三	九五、八五	九五、七五	九五、四三	九五、一七	九五、一七	九四、五八	九四、三八	九四、〇四	九三、七八	九三、七六	九二、三三	九二、三二
本 順	一九	二〇	二二	二三	二四	二五	二六	二七	二八	二九	三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九
月 分	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六	一七	一八	一九	二〇
前 位	二五	三一	一八	二六	二七	二〇	二二	一九	二二	二九	三二	三六	三三	二四	二八	三七	三六	三四	四〇	三五
月 位	二	一	二	二	二	一	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二

(三)

阿武郡報

第二十八號

合計	田方	小川	彌富	須佐	奈古	紫福	吉部	地福	生雲	篠生	明木	三見	山田	椿田	椿東	萩分	寄附現金		寄附米		廉賣		金額						
																	人員	數量	價格	人員	數量	價格	人員	金額	人員				
四二、九五五	九三二	二〇〇	一〇〇	三、一三五	一、九一五	三〇	五七四	三二	一、〇三五	一、〇三三	二〇〇	三、六九	三、一八九	三、四三三	三、三三〇	一、九四	八六六	四七〇	一、二七四	五	二〇〇	六〇	四	二、四九六	七四二	一〇	四五、五六〇	三八九	
	三	一	一	七	一	二	四	五	四	一	一	一	一	一	一	一	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三

米價暴騰に際し金品寄附施米及米廉賣總額調

大正七年十月末調

(五)

阿武郡報

第二十八號

町村名	男	女	計	本順	月	前	位
橋東	九八、一二	九七、七二	九八、七七	二	一	二	九
小川	九七、五三	九七、九二	九七、七三	三	一	三	二
三磨	九七、五八	九七、九二	九七、六九	四	一	四	一
多磨	九七、七六	九七、二八	九七、五〇	五	一	五	一
川上	九七、三〇	九六、四九	九七、一七	六	一	六	一
山田	九六、七八	九六、八八	九七、〇五	七	一	七	一
紫福	九六、一六	九七、〇四	九六、五〇	八	一	八	一
地福	九六、〇五	九八、四〇	九六、二〇	九	一	九	一
吉部	九五、六五	九四、九六	九五、六五	一〇	一	一〇	一
奈古	九六、〇五	九五、〇五	九五、六五	一一	一	一一	一
佐並	九六、一七	九六、〇五	九五、六一	一二	一	一二	一
六島	九五、五九	九五、二〇	九五、四三	一三	一	一三	一
徳佐	九七、四二	九一、五三	九二、四三	一四	一	一四	一
生雲	九一、六一	九三、八七	九二、四三	一五	一	一五	一
高俣	九一、七〇	九二、三六	九一、九二	一六	一	一六	一
見島	八二、八四	八一、三三	八二、六九	一七	一	一七	一
本月平均	九六、六五	九六、二五	九六、六〇	一	一	一	一
前月平均	九六、九二	九七、三七	九六、七七	一	一	一	一

(四)

大正七年度繭市場狀況

開市日數	取扱高		前年比較		(1) 荻 繭 市 場				
	臨時	定期	減	増	數	量	價	額	
	臨時	定期	減	増	數	量	價	額	
臨時	定期	臨時	定期	臨時	定期	臨時	定期	臨時	定期
一	二	一	二	一	二	一	二	一	二
七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
三	七	三	七	三	七	三	七	三	七
六	二	六	二	六	二	六	二	六	二

開市日數	取扱高		前年比較		(2) 德 佐 繭 市 場				
	臨時	定期	減	増	數	量	價	額	
	臨時	定期	減	増	數	量	價	額	
臨時	定期	臨時	定期	臨時	定期	臨時	定期	臨時	定期
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
三	七	三	七	三	七	三	七	三	七
六	二	六	二	六	二	六	二	六	二

(4) 最高最低及平均價格 (百匁)

西 郷 南 州

一、道は天地自然の道にして、人は之を行ふものなり、故に天を敬するを以て目的となす、天は人も我も同一に愛す、故に義を愛する心を以て人を愛すべし。
 一、人を相手にせず、天を相手にせよ、天を相手にして己れを盡し、人を咎めず、我が誠の足らざるを尋ねべし。

一、平生道を踏まざる人は、事に臨みて狼狽し、處分に苦むものなり、例せば、出火の時、平生處分あるものは動搖せずして、取始末もよく出来るべしと雖も、平生處分なきものは、唯狼狽して措くところを知らざるに至る、されば平生道を踏み居るものにあらざれば、事に臨みて策略は出でざるなり。
事に當りて思慮の乏しきを憂ふること勿れ、凡そ平生黙座靜思の際に思慮すれば、有事のとき十の八九は履行せらるゝなり、事に當りて卒爾に思慮するは、譬へば臥床夢寢の中に奇策妙計を得るが如く、翌朝起床の時に至れば、無用の妄想に屬すること多し。

一、事の上に於て、機會と稱ふるもの二あり、僥倖の機會あり、設け起す機會あり、世人の稱ふる機會とは、多く僥倖の機會を指して言ふなり、然れども眞正の機會は、理を盡して行ひ、勢を審にして動くにあり、大事に臨みては、機會は是非引き起さざるべからず。

一、人を籠絡して、陰に事を謀るものは、其事成るとも活眼より之を看れば、其醜言ふべからず、人を推すに公平至誠を以てせよ、至誠公平ならざれば、決して英雄の心を攪ること能はず。

一、命もいらぬ、名もいらぬ、官位もいらぬ人は、仕末に困るなり、此始末に困る人ならでは、艱難を共にし、國家の大業を成すこと能はず、然れども此の如き人は、凡俗の眼には見るべからず。

一、剛膽なる處を學ばんと欲せば、まづ英雄の爲せる跡を観察し、且つ事業を翫味し、必ず身を以て其事を處し、安心の地を得べし、然らざれば唯英雄の資のみありて、爲す所を知らず、眞の英雄といふべからず、この故に英雄の事に處するとき、如何なる膽力ありやを試較し、其及せるもの足らざる處を研究精勵すべし